

# 令和4年度あきた型学校評価

## (1)豊かな教育のある学校の実現

評価領域	授業実践
------	------

重点目標	丁寧な実態把握と課題設定を基に、児童生徒が自分で考え、もっと学びたくなる授業づくりに取り組む。	P		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度までの研究実践により、実態に応じた目標設定、修正が実現し指導内容の見直しを進めている。</li> <li>・児童生徒が、自分のこととして「学び」を実感しつつある。</li> <li>・課題として、児童生徒がどのような思考で取り組んでいるのか丁寧に見取ることが必要である。</li> <li>・児童生徒が学びを実感する姿につなげられるよう、指導の評価・改善を進めるさらなる実践をする。</li> </ul>			
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が「何を学んだのか」「何ができるようになったのか」が分かり、次の活動にさらに意欲をもって取り組もうとする授業づくりを行う。</li> <li>・児童生徒の実態、「期待される内面の育ち」について教員間で共通理解を図り、子どもの視点から授業づくりを行う。</li> <li>・児童生徒個々の内面の育ちを見取り、授業改善を行う。</li> </ul>			
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧な実態把握と学びの過程を大切にした授業づくり</li> <li>・学習評価のあり方についての検討</li> <li>・教育課程全体での内面の見取り</li> </ul>			
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元構想シートを用いた授業計画（授業づくりミーティングⅠ）</li> <li>・育てたい力（集団）、目指す姿（個別）の明確化</li> <li>・学部研究会、各種授業研究会を通じた学習評価に関わる協議と実践</li> <li>・ICTの活用</li> <li>・内面の見取りによる評価、指導の評価・改善（授業づくりミーティングⅡ）</li> <li>・学習記録の蓄積（指導案の作成、児童生徒の様子等）</li> </ul>	D		
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元構想シートは、単元の整理、授業者の意図の共有、学びの過程を捉えるツールとして有効であった。</li> <li>・授業研究会は、毎回明確な協議題を設定できた。また、複数の目で児童生徒の姿を捉えることの大切さを再確認できた。</li> <li>・児童生徒の行動から内面を考察し、変容を共有できた。</li> </ul>			
自己評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center;">A</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動目標だけでなく、期待する内面の育ちによって児童生徒を多面的に捉えることができた。</li> </ul> </td> </tr> </table>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動目標だけでなく、期待する内面の育ちによって児童生徒を多面的に捉えることができた。</li> </ul>	C
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動目標だけでなく、期待する内面の育ちによって児童生徒を多面的に捉えることができた。</li> </ul>			
<p style="text-align: center;">↑ 評価基準 ↓</p> <p style="text-align: center;">A：具体的な活動がなされ目標を達成できた                  B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない                  C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>				
学校関係者評価と意見	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center;">A</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のゴールを明確にして、子どもたちの様子から、内面の動きや成長の芽生えを感じ取り適切な手立てを検討していました。このことをチームとして行っており、先生方の力量向上につながっています。子どもの成長を喜び、先生方自身の成長も喜びながら、楽しい授業づくりを続けてほしいと願っています。</li> </ul> </td> </tr> </table>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のゴールを明確にして、子どもたちの様子から、内面の動きや成長の芽生えを感じ取り適切な手立てを検討していました。このことをチームとして行っており、先生方の力量向上につながっています。子どもの成長を喜び、先生方自身の成長も喜びながら、楽しい授業づくりを続けてほしいと願っています。</li> </ul>	C
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のゴールを明確にして、子どもたちの様子から、内面の動きや成長の芽生えを感じ取り適切な手立てを検討していました。このことをチームとして行っており、先生方の力量向上につながっています。子どもの成長を喜び、先生方自身の成長も喜びながら、楽しい授業づくりを続けてほしいと願っています。</li> </ul>			
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒を見取ることの必要性は理解できたが、「内面」を見取ることの難しさや見取り方については課題が残った。そこで、授業研究会の場の活用を進め、「見取り」を大切にする研究を継続する。</li> </ul>	A		

(2)豊かな地域生活への支援

評価領域	地域における学習
------	----------

重点目標	交流及び共同学習を計画的、組織的、継続的に行うことをとおして、共に学び合う環境を整え、児童生徒の社会性の伸長を図る。	P	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住地校交流は、小・中学部の希望する児童生徒が実施している。</li> <li>・交流前に障害理解授業を行うことで、相手校の児童生徒の障害理解や不安解消に結び付いている。</li> </ul>		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部と連携した居住地校交流と障害理解授業の推進</li> <li>・各分掌等と連携した障害理解に関する情報発信</li> </ul>		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住地校交流の進め方の検討（マニュアル変更）と学部内の情報交換及び共通理解</li> <li>・交流相手校との連絡方法や打合せ資料等について整理</li> <li>・居住地校交流・障害理解授業についての校内外への情報発信</li> </ul>		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住地校交流の進め方を整理し、学部会や学部回覧などで情報を共有した。</li> <li>・総務部と連携し、巡回学校展や交流相手校でのミニ学校展を実施した。また、交流終了後には、ホームページ上で活動を紹介した。</li> </ul>	D	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住地校交流では、流れを整理すると共に手続きや書類などについて担任をサポートし、スムーズな実施に結びつけた。</li> <li>・障害理解授業を担当と協力し実施できた。また、情報発信として、地域支援部便り「アシスト」の活用やホームページで紹介できた。</li> </ul>		
自己評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住地校交流、それに伴う障害理解授業については担任の協力を得ることができ充実して進めることができた。</li> </ul>	C
↑ 評価基準 ↓	<p>A：具体的な活動がなされ目標を達成できた                  B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない                  C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		
学校関係者評価と意見	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域」と一緒に活動する機会が多く見られて、コロナ禍でも多様性に富んだ内容が良かったと思います。その一方で、学校評価アンケートで地域との関わりに関する設問の評価点が低く、「わからない」人数も多いように思います。「広報」の部署を設けるなど組織的な改革を検討してもいいかもしれません。</li> </ul>	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住地校交流の円滑な実施のための体制づくりと交流及び共同学習に関する情報発信をさらに充実させる。</li> <li>・地域の小・中・高等学校等と連携した障害理解授業の推進とボランティア講座を実施する。</li> </ul>		A

(3) 児童生徒の安全安心と健康な生活の確立

評価領域

安全・防災教育

重点目標	学校における教職員の危機管理意識・能力等の組織的対応力を高める。児童生徒一人一人の健康の維持・増進、意欲や気力の充実等健康教育や食育を積極的に推進する。		P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中に不審者対応訓練などを実施するなど工夫して安全教育を進めている。</li> <li>計画的な避難訓練が実施され、事後学習では映像やクイズなどを取り入れるなど充実している。</li> <li>下校指導では、歩きスマホや歩道の歩き方などのマナーを守ることが定着していない。</li> <li>他の学校よりも、コロナウイルス感染症の罹患者が少なく、家庭と連携した健康教育がなされている。</li> </ul>		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関や保護者と連携した避難訓練や通学指導等を通じ、自分の命を守る安全・防災教育の推進</li> <li>養護教諭、栄養教諭の活用による実践をとおした家庭との連携及び個に応じた健康教育・食育の推進</li> </ul>		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教室や避難訓練は、消防署や警察署、保護者の協力を得る。</li> <li>ゲームやスマートフォンの適切な利用について、継続的な指導を行うと共に、保護者面談や生徒指導だよりを活用し、保護者との連携を図る。</li> <li>下校指導を継続的に行い、必要に応じてミニ集会や個別指導を行う。</li> <li>肥満傾向の児童生徒への健康教育の実施や家庭との連携を進める。</li> </ul>		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲームやスマートフォンの利用時間、ルールについてネット安全教室や学部集会で指導した。家庭での安全な利用については、通信や面談等で話題にし協力を依頼した。</li> <li>下校指導は月1回実施し、生徒の様子を全職員にメールで知らせた。</li> <li>避難訓練は、学部ごとのまとめの会を実施した。</li> </ul>		D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練は、地震、火災、不審者対応等をそれぞれ実施した。</li> <li>肥満改善に向け個別に体重測定を行い、指導した。</li> <li>養護教諭による歯磨き指導や栄養教諭が偏食気味の児童生徒に対して担任の相談に応じるなど家庭と連携した取組ができた。</li> </ul>		
自己評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練実施後は、学部ごとに事後指導を行い、災害時の対応について、発達の段階に応じて指導できた。</li> <li>養護教諭や栄養教諭が、各学部の授業、集会、委員会活動等で児童生徒に専門的な立場からの話ができた。</li> </ul>	C
<p>↑ 評価基準 ↓</p> <p>A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた                  B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない                  C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>			
学校関係者評価と意見	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍において、児童生徒の願いや悩みを丁寧に聴くための具体的な手段やシステムを作り、保護者とも共有していく必要があると感じました。</li> </ul>	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練や安全管理計画の見直しと自分の命を守る安全・防災教育の推進、並びに総合教育センターとの連携による実際的な避難訓練を実施する。</li> <li>家庭との連携ツールを活用した、個に応じた健康教育・食育を進める。</li> </ul>		A

(4) 総合教育センターとの連携の推進

重点目標	総合教育センター指導主事からの助言を活用したり、研修講座の受講を計画的に実施したりすることとおして、教員の資質向上及び授業改善を図る。		P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣接する秋田県総合教育センターの施設利用や特別支援教育担当指導主事による授業参観、本校研究への指導助言等をいただいている。</li> <li>・今年度は、研究推進委員会を適宜開催し、研究の進捗状況を確認しながら公開研究会を実施した。</li> </ul>		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育センター指導主事からの助言を活用したり、研修講座の受講を計画的に実施したりすることとおして、教員の資質向上及び授業改善を図る。</li> <li>・センター職員、研修員、研修受講者等の実習や参観を積極的に受け入れ、特別支援教育の理解推進を図る。</li> </ul>		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校種の初任者が、本校の授業を参観するなどし本校の教育や特別支援教育について理解を深める。</li> <li>・教育センター職員による学校見学会や交流会を通して、本校や児童生徒についての理解を深める。</li> </ul>		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、初任者研修は授業参観のみとなり、児童生徒とのふれあいは計画通りできなかった。</li> <li>・所員、研修員は4月に見学会を実施することができた。</li> <li>・センター指導主事による授業研究会は、特別支援教育担当3名を一度ずつ招聘することができた。研究を進めるにあたり、貴重な助言をいただき、研究のまとめに生かすことができた。</li> </ul>		D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター指導主事による指導助言は、研究部だよりに掲載し、教員間で情報共有した。</li> </ul>		
自己評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター指導主事を招いての研究会は、研究を進める上での示唆を得ることができ大変有意義な会となっている。</li> <li>・実地研修の場としての本校の活用は、コロナ禍の影響のため受け入れが難しかった。コロナ禍であっても、どのように研修ができるのかを検討したい。</li> </ul>	C
↑ 評価基準 ↓			
A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない			
学校関係者評価と意見	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部低学年では、チームとして授業づくりを進めています。チーム内で様々な手立てを検討することで、子どもたちは育っていきます。このチームの雰囲気为学校全体のものになるように授業づくりを続けて欲しいと願っています。</li> </ul>	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究に関しては、センター指導主事を共同研究者として迎え入れ定期的にアドバイスをいただくなどの活用をしていく。</li> <li>・総合教育センターの人的リソースを生かし、各教科担当指導主事の活用についても検討し、実践を深める。</li> </ul>		